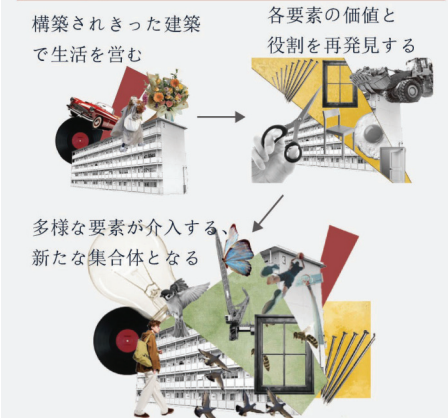


積層しなおす小さな営み



00. 解築の射程



建築は「たてる」ことで環境を固定し、人の生活の安定を目指してきた。一方で解築は既存の建物や仕組みを「ほどく」ことで資源や価値を再発見しヒト・モノ・コトが循環することだと捉えた。

01. ニュータウン開発によるレイヤーの均質化



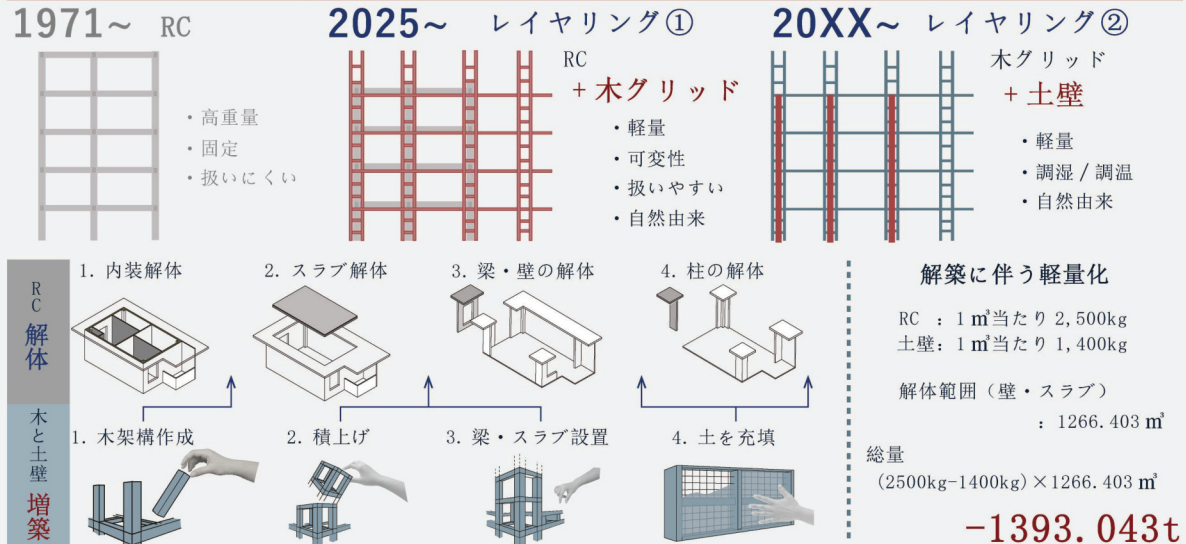
かつて多摩地域では、多様なレイヤーが重なり里山のシステムを形成していた。しかし機能的なニュータウン計画は、人の活動や自然環境を街区に割り当てた。均質化した空間は住民の自発的な交流や地域内での生産の機会を奪い、住民のつながりの希薄化と同時に建物の老朽化といった問題（オールドニュータウン化）が顕在化している。

02. レイヤーの編み直し

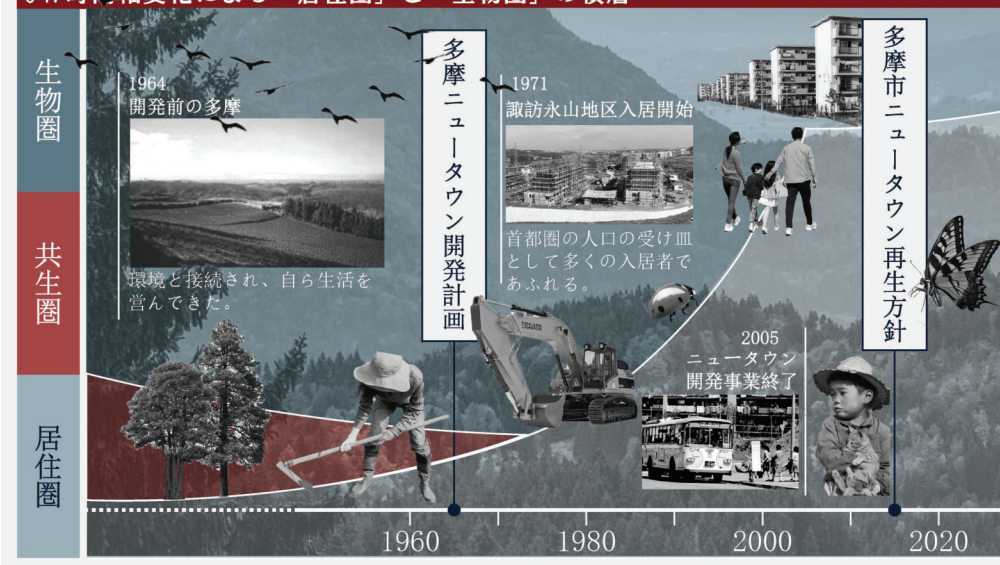


団地を「ほどく」ことで、かつての里山のような多層的な関係性を再構築する。解築により自然という現状を揺るがす存在を取り込むことで新たな空間の余白が生まれる。団地は完成形にとどまることなく、時間と共に変化し続けるその結果、住民が主体的に関わり、手を加え更新していく余地は人々の新たな営みを生み出し循環の起点となる。

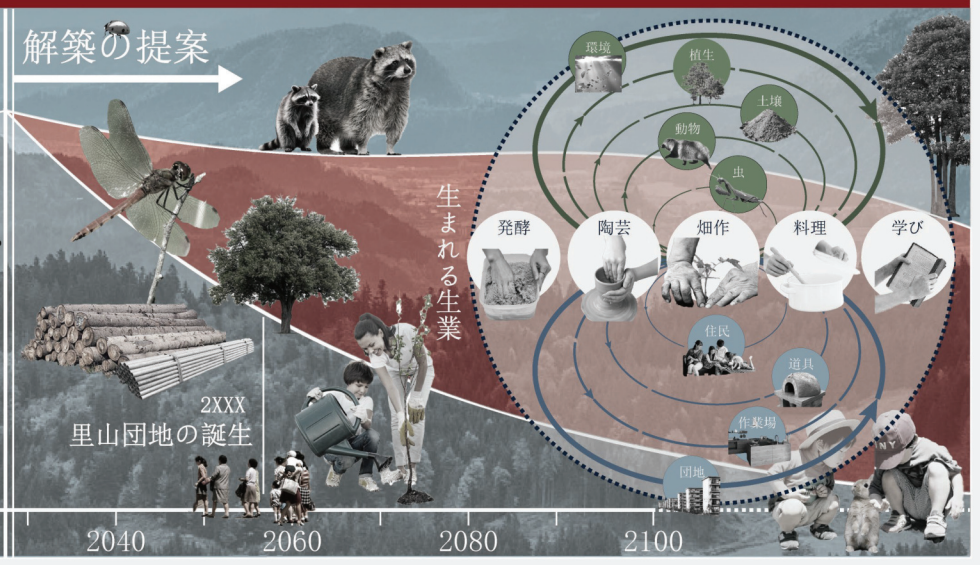
03. レイヤリングによる解築



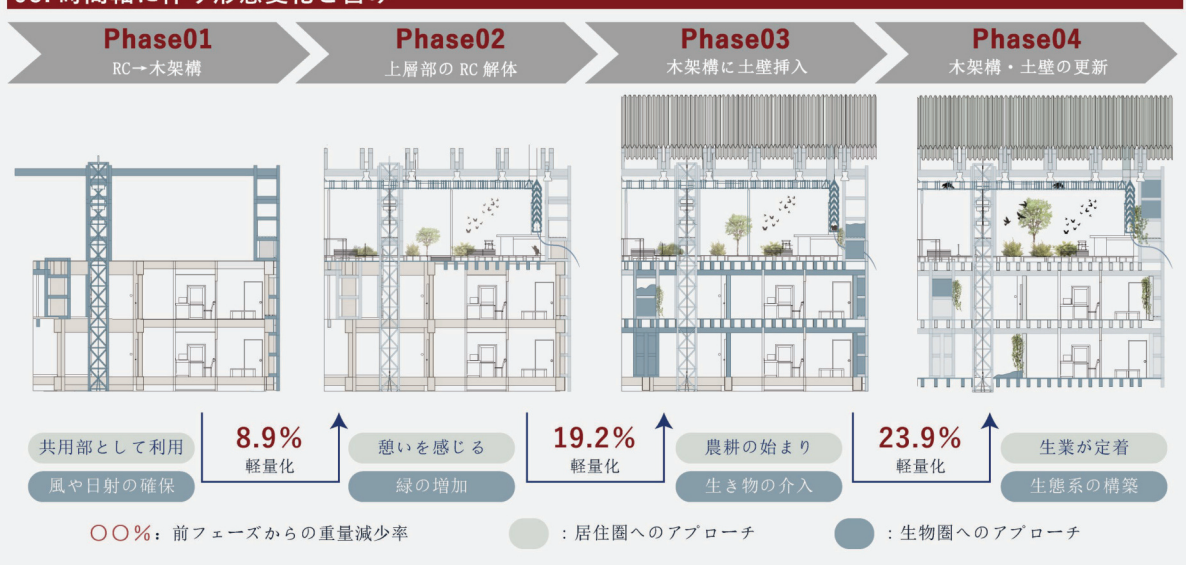
04. 時間軸変化による「居住圏」と「生物圏」の積層



解築の提案



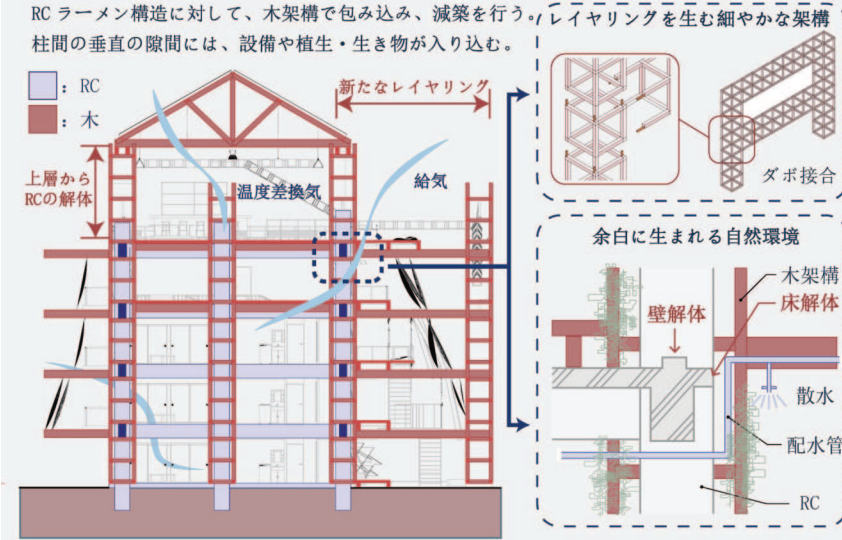
05. 時間軸に伴う形態変化と営み



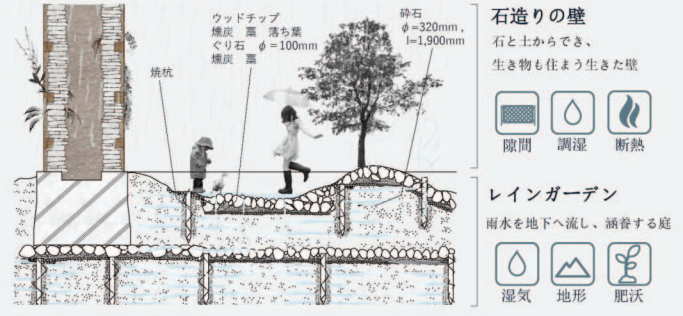
06. 小さな営みの積層



07. RC 減築 × 木増築による解築システム



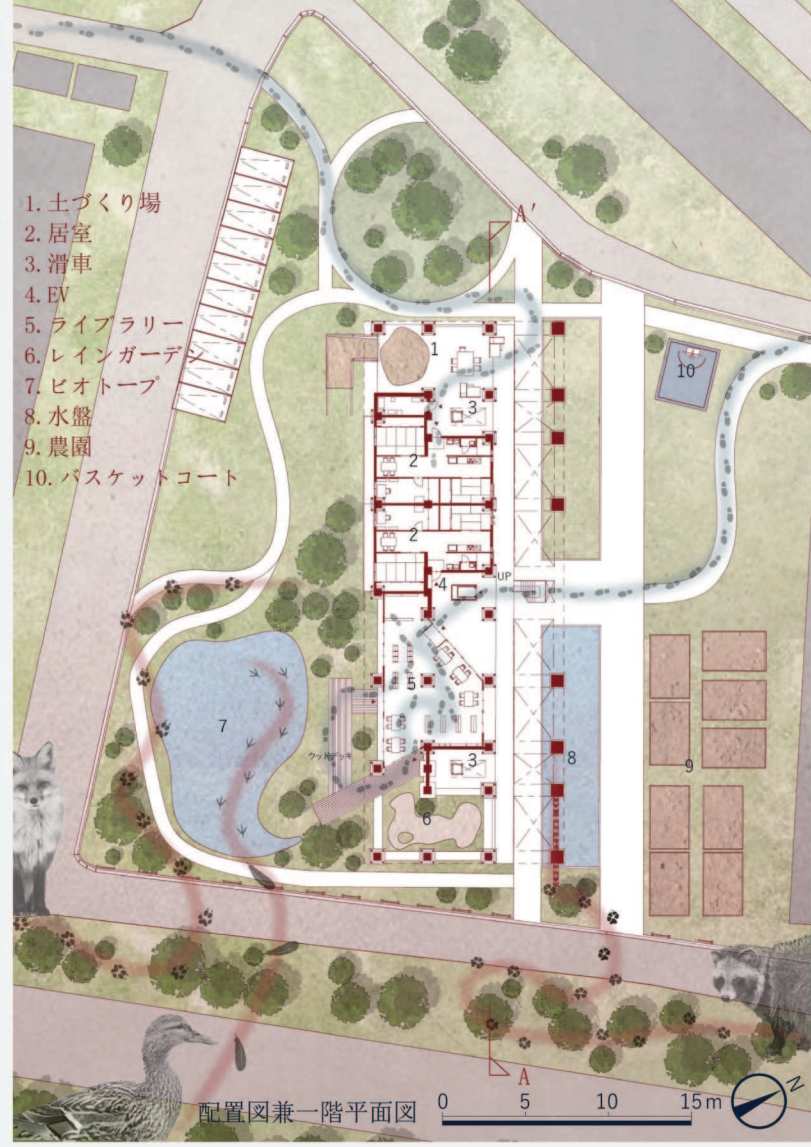
09. 自然由来の構造による環境配慮



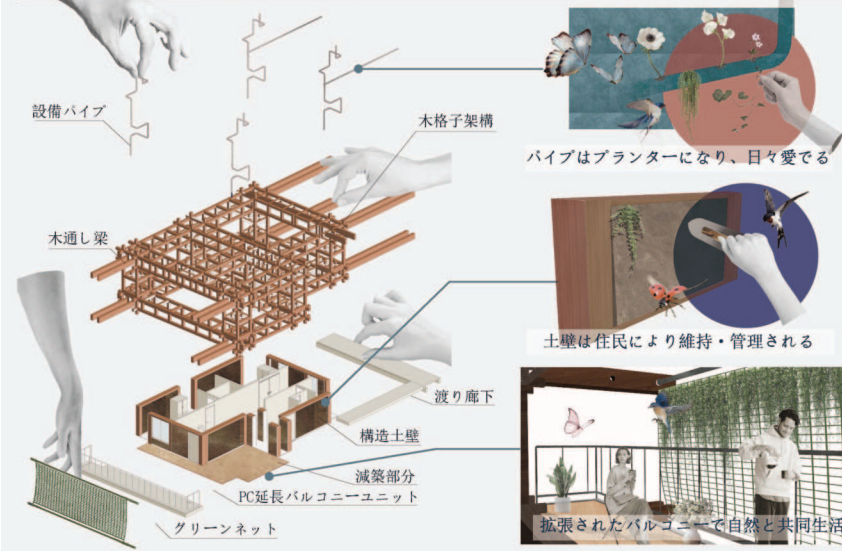
10. 生き物が介入するアニマルコリドー



12. 小さな営みが波及していく



08. 自然と共生する新たな住まい方



11. 営みによる人と自然の相互作用

